

令和4年度
仙台市



町内会活性化講座 テキスト



テキスト作成
株式会社 Glocal Design

目次

《基礎編》

1. 町内会のいま

- ・ 地域コミュニティの中心的な担い手「町内会」のいま-----4

2. 担い手不足の要因と解決方法は？

- ・ なぜ、担い手不足になるのか？ -----5
- ・ 担い手不足の処方箋～まずはこの2つから -----5
- ・ ①アンケート調査で課題とニーズの把握、人材発掘 -----6
- ・ ②-1町内会の情報発信の強化は、若い世代を巻き込むチャンス！ -----8
- ・ ②-2コミュニケーションツールを活用しよう！ -----8

3. 町内会運営から地域コミュニティの運営へ

- ・ 町内会も変わらないと -----9
- ・ 発想の転換～町内会組織運営から地域コミュニティ運営へ -----10
- ・ 「自分たちでやる」から、つながる・つなげる町内会運営へ -----11

《テーマ編》

1. 地域コミュニティ(町内会)運営マニュアル

- ・ 運営マニュアルの目的 -----13
- ・ 運営マニュアルづくりのフロー -----13
- ・ 運営マニュアル作成のポイント -----14

2. 町内会のデジタル化

- ・ LINEグループを用いた町内会の情報共有 -----15
- ・ Facebookページやホームページを用いた情報共有と広報 -----16
- ・ 回覧板を電子化 -----17
- ・ 町内会における情報の流れ -----18

3. 若い世代の参画

- ・ 若い世代や地域に戻ってきた人々に参加してもらおう！ -----19
- ・ 関心の高いテーマから気軽な参加を促す -----19
- ・ 実行委員会方式などで事業を実施 -----19
- ・ サポーター制度の設置と活用 -----20

参考資料

- ・ 町内会・自治会を考える50のきっかけシート -----21

基礎編

1. 町内会のいま

地域コミュニティの中心的な担い手「町内会」のいま

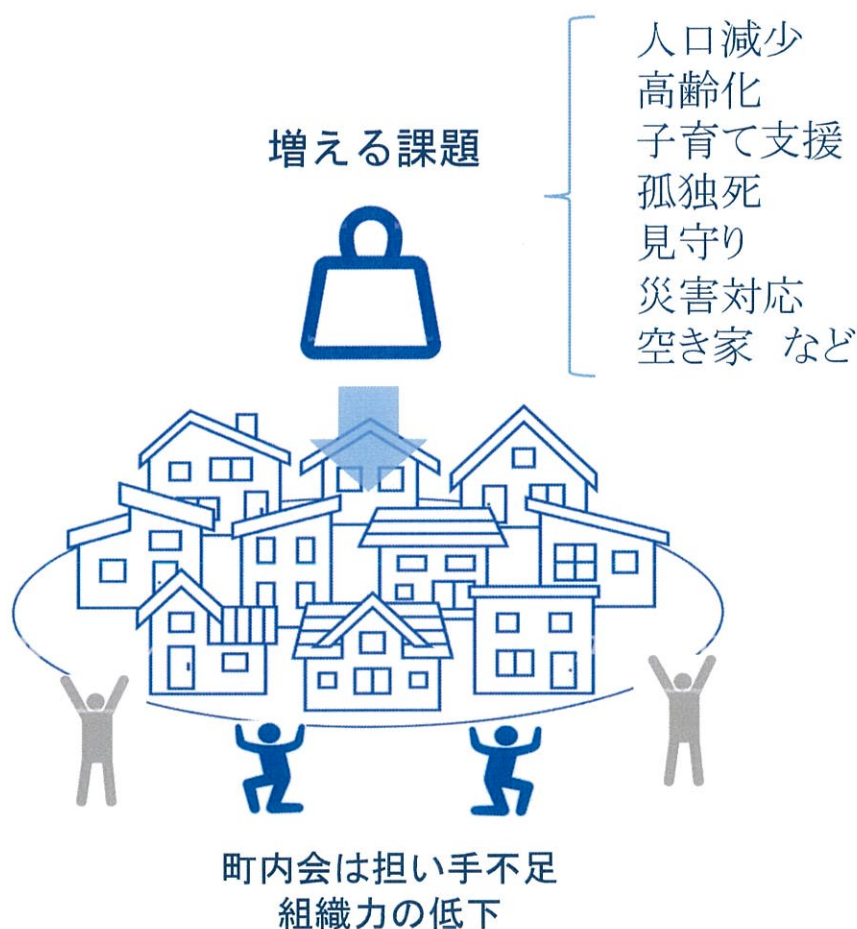
ごみ集積所の管理や清掃などの環境美化、防災活動など町内会・自治会（以下「町内会」という。）は、地域コミュニティの中心的組織として地域住民の暮らしを支えてきました。

しかし近年は、高齢化や担い手不足、未加入者の増加などにより、町内会組織力の低下が見られます。

加えて、地域コミュニティでは、ライフスタイルの変化により地域コミュニティに対するニーズが変化しているほか、コロナ禍で孤独を感じる人の増加などもあり、新たな地域課題が生まれています。

組織力が低下し始めている課題を抱える一方で、こうした課題に対応することも求められており、町内会は新たな運営のあり方を考えることが求められています。

増える地域コミュニティの課題と組織力が低下している町内会



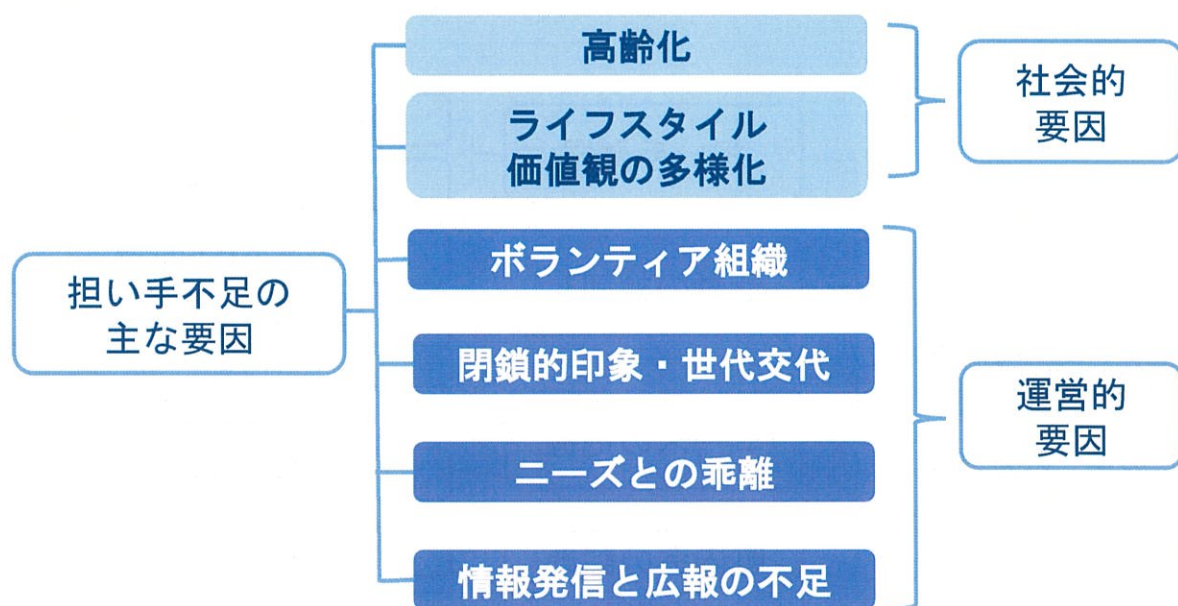
2. 担い手不足の要因と解決方法は？

なぜ、担い手不足になるのか？

町内会の担い手不足は、全国の町内会に共通した課題です。

担い手不足の要因は、高齢化やライフスタイルの変化など「社会的要因」と町内会組織の「運営的要因」があります。

担い手不足に対応するには、「社会的要因」を理解しつつ、「運営的要因」の改善を進めることが求められます。



担い手不足の処方箋～まずはこの2つから

担い手不足に対する解決の手がかりとしては、大きく2つの手法があります。

① ニーズの把握（アンケートの実施など）

会員との課題の共有、ニーズの把握と活動の棚卸し、人材の発掘

② 情報発信の強化・コミュニケーションの活発化

FacebookページやLINEなどSNSの活用、掲示板の工夫

① アンケート調査で課題とニーズの把握、人材発掘

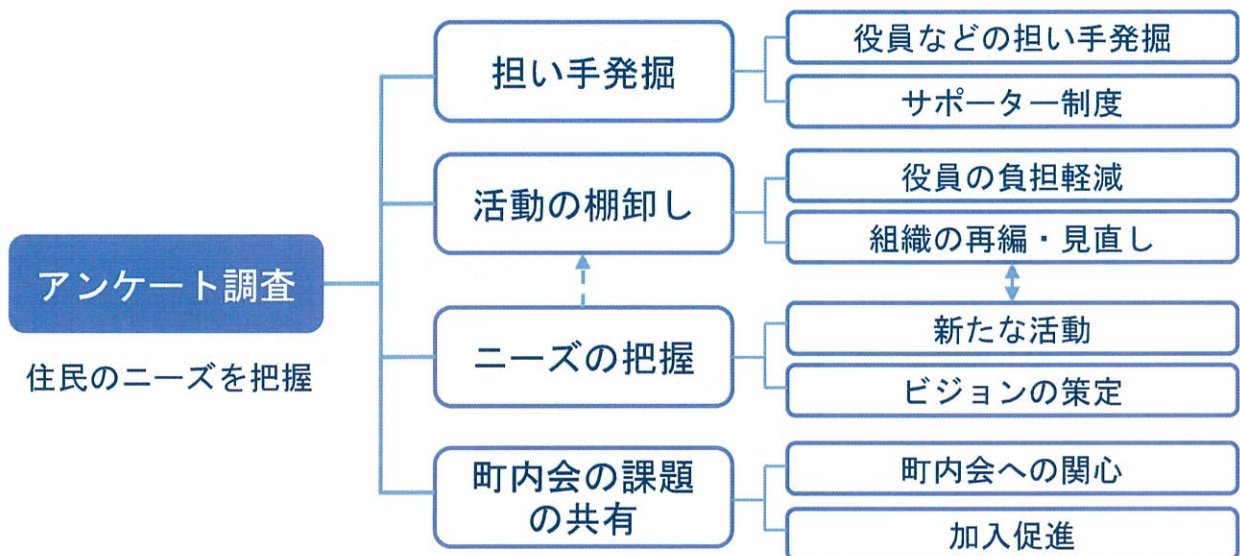
担い手不足の対応を始め、町内会活性化を考えるにあたっては、町内会の会員を対象にアンケートを実施することをお勧めします。

アンケートでは、実施の目的のところに町内会が抱える担い手不足などの課題を明記することで、会員と課題を共有し、そこから町内会のあり方について考えてもらえる利点があります。

また、アンケートで会員ニーズを把握することはもちろん、担い手の発掘を行うことができます。

実際に仙台市などの町内会では、アンケートを通じて新たな役員や町内会の活動を支えてくれる人材の発掘につなげているところもあります。

さらに、アンケートでニーズを把握して活動の見直し＝棚卸しを行い、役員の負担軽減につなげたり、組織の再編や見直しを行うこともできます。



アンケート項目（案）

【想定されるアンケートの設問（基本設問）】

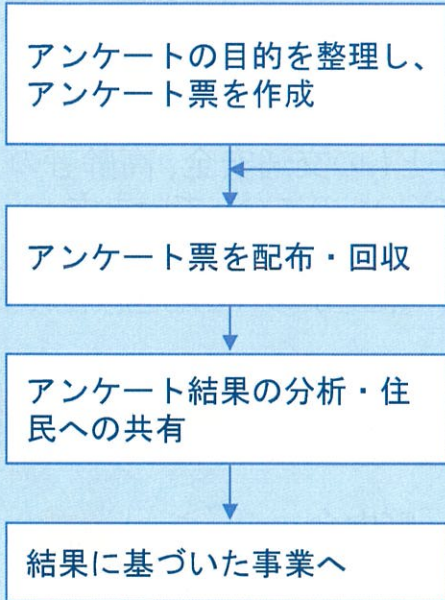
- 町内会の会員の属性など(年代、性別、世帯の構成など)
- 参加したことのある活動(活動の見直しのヒント)、今後必要だと思われる活動
- 町内会へのイメージ・印象、人のつながり
- 担い手不足に対する会員の意見・意向
- 町内会組織運営への参加の意識(役員やサポーターへの就任について)
- 希望する情報発信方法(回覧板、掲示板、メール、SNSなど)
- 自由意見 など



【各町内会の課題に合わせた設問】

会員を対象としたアンケート票の作成と調査の実施

アンケート調査の流れ（例）

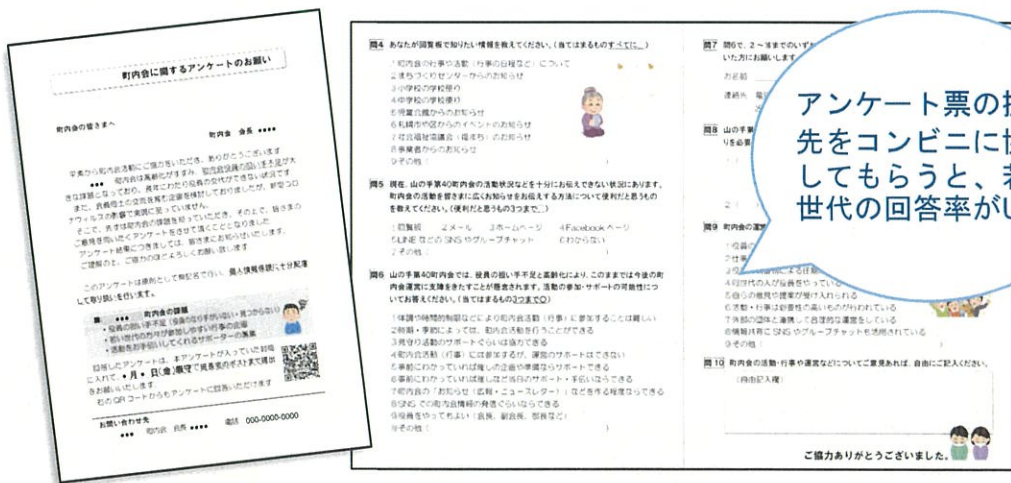


- 個人情報保護について
アンケートの回答に個人情報にあたる内容が含まれている場合は、配布時に返信用封筒に入れ、封を閉じたものを回収すると良いでしょう。
- 回収方法について
回収方法にはいくつかの方法があります。町内会にとって負担が少なく、かつ回収率の高いものを組み合わせると効果的です。
 - ・班長が各戸を回る
 - ・班長宅で回収（回答者が届ける）
 - ・集会所などにポストを設置（その他、コンビニや商店などに協力してもらい、回収ポストを置いてもらうなど）

事例

町内会区域全戸へのアンケート票の配布 (札幌市西区山の手第40町内会)

- ・ 回覧板にアンケート票を添付し、町内会会員にアンケート調査を行った。
- ・ 同時に未加入世帯や若い世代も回答しやすいように、WEBでのアンケート回答フォームのQRコードを付けた町内会活動の周知のためのチラシも配布し、多世代の意見を聞いた。
- ・ その結果、13名の役員候補・サポーター候補者を抽出した。



② -1 町内会の情報発信の強化は、若い世代を巻き込むチャンス！

町内会の加入率の低下や担い手不足の要因の1つに、町内会の活動が知られていないことがあります。

町内会が冠婚葬祭を行っていた昔であれば、町内会活動が目に見えるかたちで存在していたことから、町内会の役割を地域のみなさんが理解していました。

しかし、現在の活動は、ごみ集積所の管理や子どもの交通安全、高齢者の見守り、防災活動などで、少しその活動が見えにくいものになっています。

加えて、一番見えやすい夏祭りなどのイベントなども、伝統行事ゆえに主催が町内会であることをPRすることなく実施されていることが多々あると思われます。

地域に住んでいる人たちに町内会を理解してもらうために、これからの町内会は、情報発信を強化することが必要です。

担い手不足と情報発信の強化を逆手に取ると、「町内会で広報担当、広報部を設けるので、協力してもらえないか」と周りの若い世代に声をかけることができるチャンスでもあります。

情報発信の強化は、若い世代に協力してもらいましょう！



② -2 コミュニケーションツールを活用しよう！

回覧板を読む方が減少しているなかで、町内会の情報共有は、回覧板だけではできなくなっています。

そこで、町内会でも会員のニーズに対応して、電子回覧板やFacebookページやSNSなどによる情報共有を行うことが必要になっています。

特に、新型コロナウイルス感染拡大時には「回覧板をやめて欲しい」、「LINEなどのSNSに変えて欲しい」という声が聞かれるようになりました。

スマートフォンが普及し、多くの方が使用するようになり、以前に比べてスマートフォンで情報を入手することに抵抗が少なくなっています。また、高齢の方も遠く離れた家族とLINEでコミュニケーションをとっており、こうしたツールを使うことに慣れてきています。

これからの町内会では、こうしたコミュニケーションツールを活用することが必要です。

コミュニケーションツールを活用することで連絡や意見交換が容易になり、役員の負担軽減につなげることができます。

LINEなどを活用しコミュニケーションをとることが当たり前の若い世代に、町内会に参画してもらいたいと考えるなら、新たなコミュニケーションツールの導入も考えることが大切です。



3. 町内会運営から地域コミュニティの運営へ

町内会も変わらないと

町内会組織ができたのは、戦前と言われていました。「回してちょうだい回覧板」という歌は戦時中です。

町内会は、すでに80年、90年の歴史がある組織といえますが、その間に、社会情勢は大きく変わっています。

戦後の人口増加や高度経済成長の時代から、現在は人口減少、少子高齢化、高度情報化といった時代へ移り変わっています。

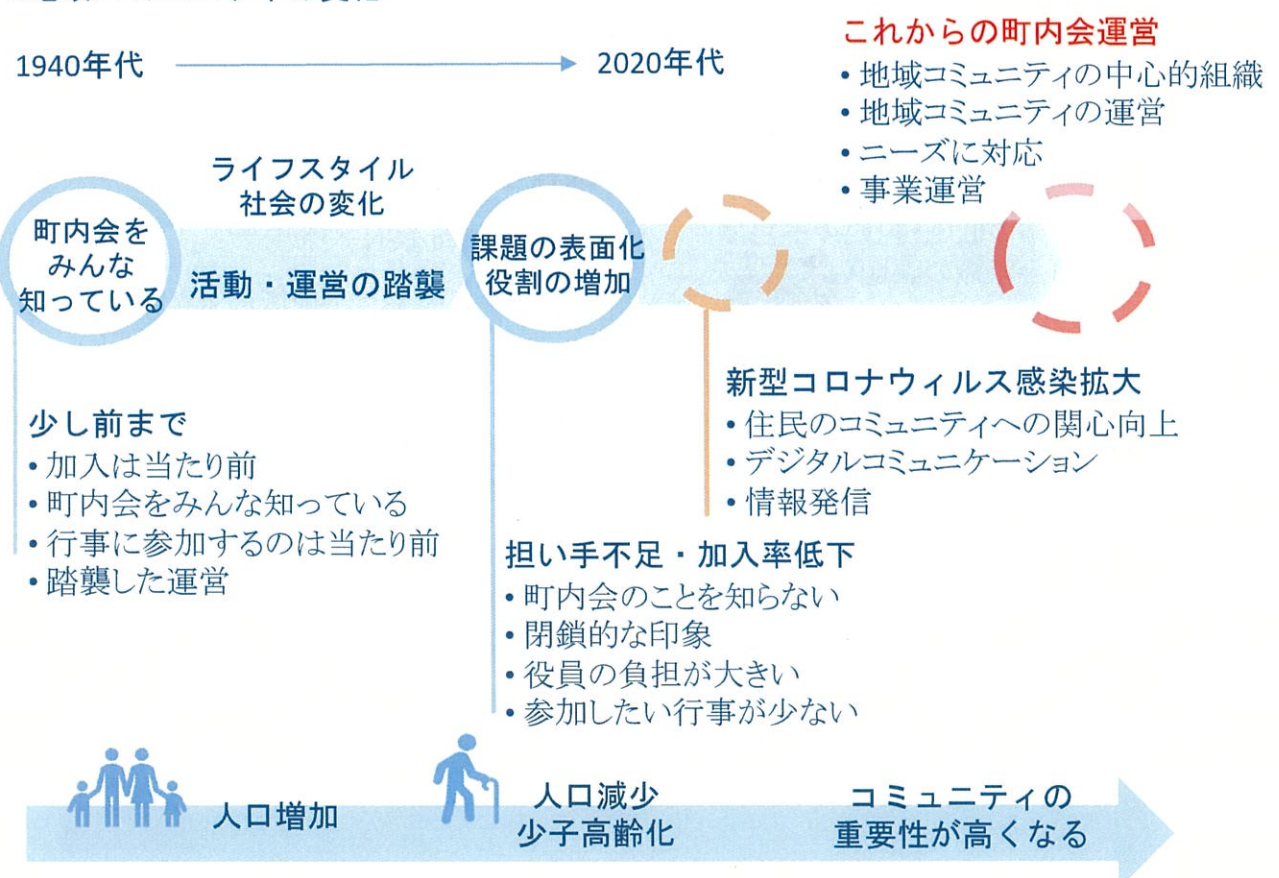
町内会は、社会が大きく変化するなかで、地域の文化や伝統を守りながら地域コミュニティの中心的存在として様々な活動を行ってきました。

しかし、昔ながらの町内会に意義を見出せず、参加する若い世代が減り、加入率の低下や担い手不足が顕著になり、組織の解散を検討する町内会も全国的には出始めています。

一方で、地域コミュニティには、高齢化に伴う見守りや防災、テレワークなどにより孤独を感じている若い世代への対応などの課題が増えています。

こうした状況を踏まえると、町内会はこれまでの運営を見直し、そのあり方を考えることが求められています。

■地域コミュニティの変化



発想の転換～町内会組織運営から地域コミュニティ運営へ

地域コミュニティの中心的な担い手である町内会は、加入率の低下や担い手不足などの課題を抱えています。

一方、地域コミュニティでは、高齢化に対応した見守りや子育て支援、孤独死、災害対応、空き家など様々な課題が顕著になってきています。

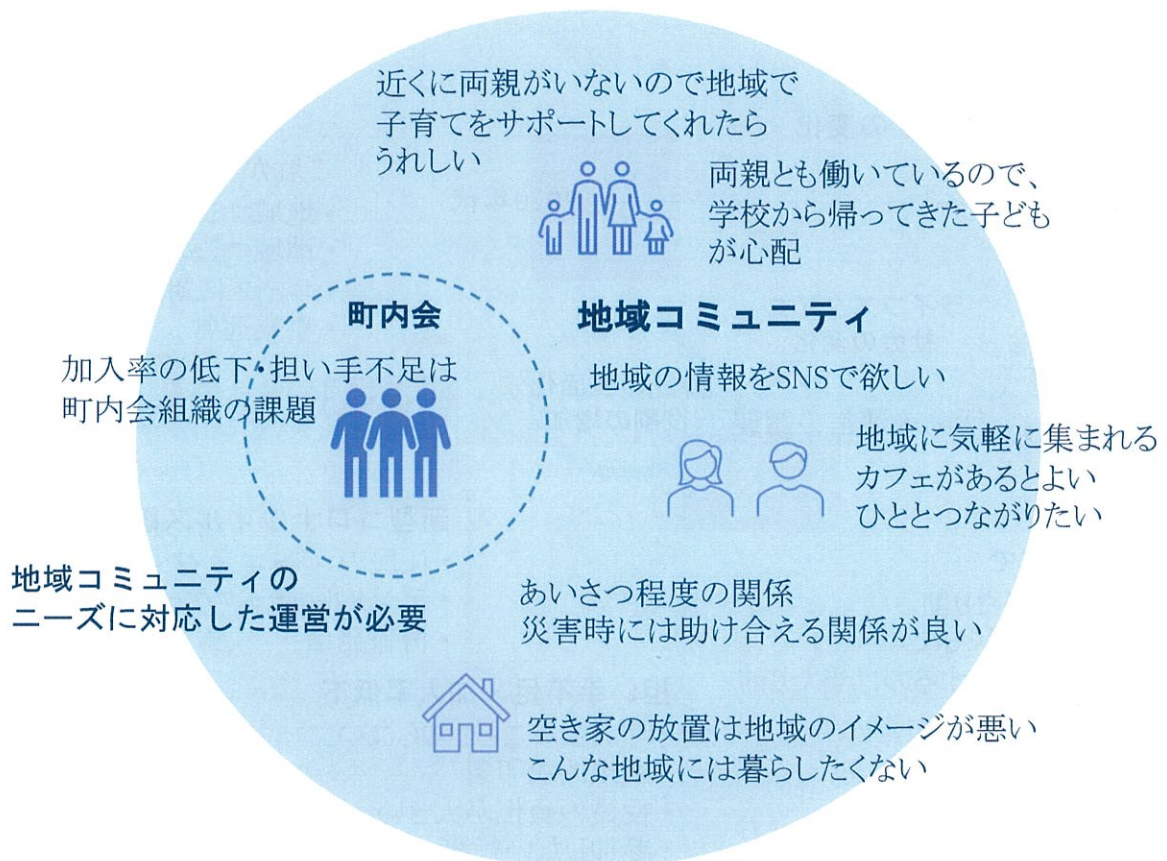
地域コミュニティの中心的役割を担う町内会にこれから求められるのは、地域コミュニティで顕著になっている課題に対応することです。

目の前の加入率の低下や担い手不足も解決しなければならない大きな課題ですが、町内会に関心のない地域コミュニティの住民などから見ると、関係のない課題、町内会組織の課題に見えてしまうこともあります。

これから大切なことは、町内会が、地域コミュニティのニーズに対応して地域コミュニティを運営することです。

地域コミュニティのニーズに対応することが、それを中心的に運営する町内会組織への理解や共感につながり、また、協力者を増やすことにつながり、加入率の低下、担い手不足の解消にもつながると考えられます。

すなわち、地域コミュニティのニーズという広い視点に立ち、町内会組織運営から地域コミュニティ運営への発想の転換が必要になっています。



「自分たちでやる」から、つながる・つなげる町内会運営へ

様々な課題が顕著化している一方、加入率の低下や担い手不足で組織力が低下していることが懸念されます。

地域コミュニティの中心的存在である町内会に求められるのは、地域コミュニティのニーズに対応した活動を考え、自分たちができない場合には、町内会以外の団体などと連携してニーズに対応していくことです。

●多様な活動主体をコーディネート

ニーズに応じた活動のために、新たな活動の取り組みを地域コミュニティの様々な団体や組織と連携して進めることが必要と考えられます。

大切なことは、「自分たちでやる」から、「様々な個人や団体、組織へつながり・つなげて」ニーズに対応することです。



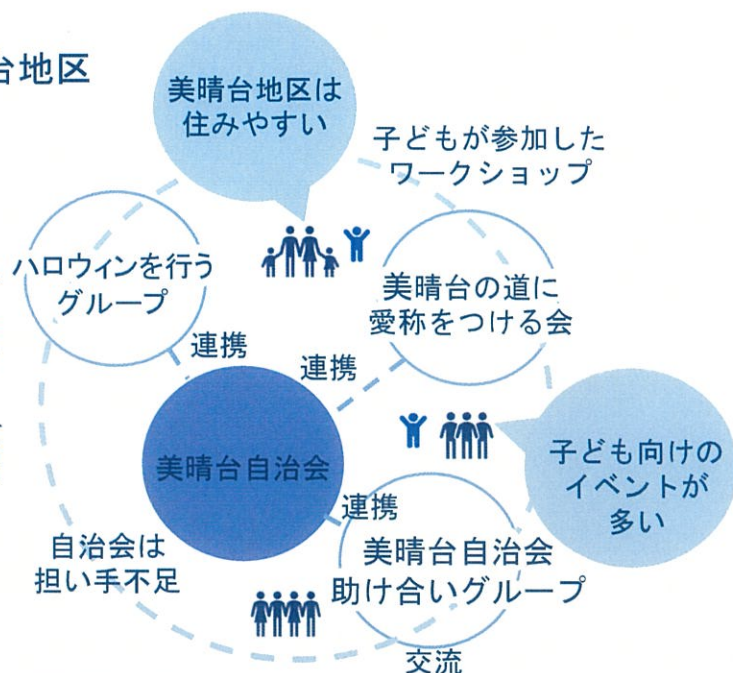
事例

●横浜市港南区美晴台地区

横浜市港南区美晴台地区は、50年以上が経過した住宅地ですが、空き家が出ると若い世代が移り住んできています。

自治会は、高齢化が進み担い手不足ですが、地域の様々な団体と連携して子ども向けのイベントなどを行なっています。

これにより、美晴台地区は子育てによいまちという噂が立ち、若い世代が移り住んできています。



テーマ編

1. 地域コミュニティ（町内会）運営マニュアル

運営マニュアルの目的

マニュアルは役員交代を前提として作成する

- 地域コミュニティ(町内会)マニュアルは、役員の交代を容易にするためのもので、役員の交代の仕組み(任期、複数制、輪番制など)と併せて作成することを基本とします。

マニュアルづくりは活動の見直しと併せて行う

- マニュアル作成は、町内会の活動内容を見直す(棚卸し)機会です。
- ニーズに対応した活動を考え、活動を見直し、マニュアルを作成することが必要です。

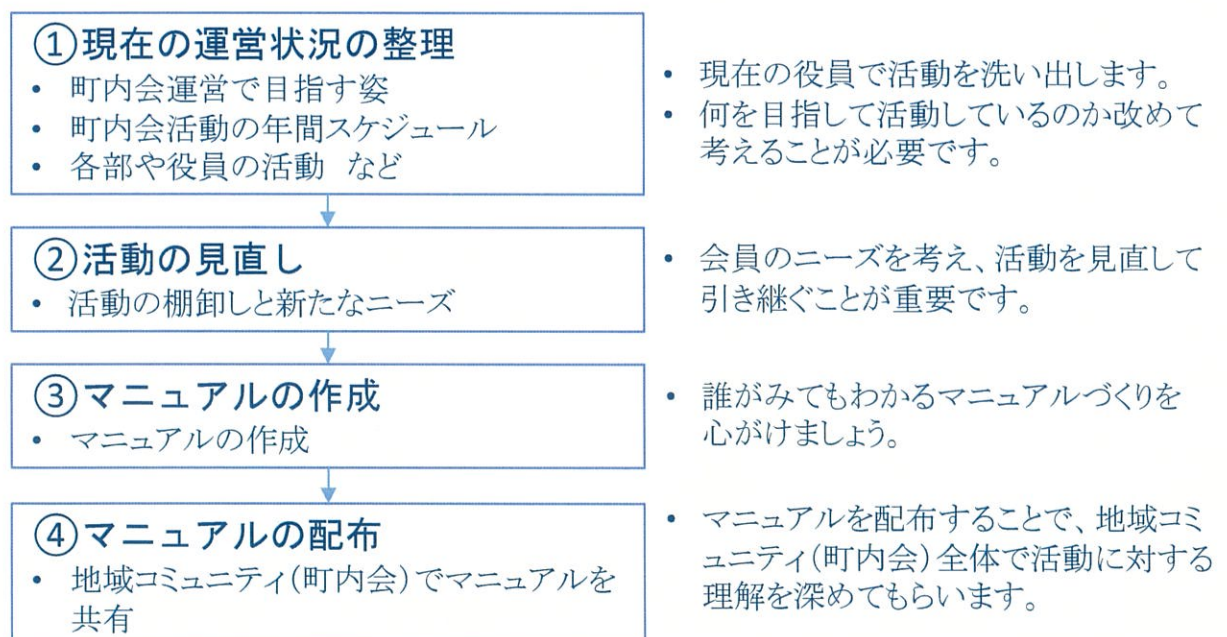
マニュアルを地域コミュニティで共有し、活動への理解を高めましょう

- 地域コミュニティ(町内会)マニュアルは、活動の年間スケジュールや役員の作業などがわかりやすく整理されたものになります。
- 作成したマニュアルを、地域コミュニティ(町内会)に配布し、活動への理解を深めてもらうようにしましょう。

運営マニュアルづくりのフロー

マニュアルづくりのフロー

- マニュアル作成は、町内会の活動内容の見直し(棚卸し)と併せて行うことが重要です。



運営マニュアル作成のポイント

マニュアルはバージョンアップを前提とする

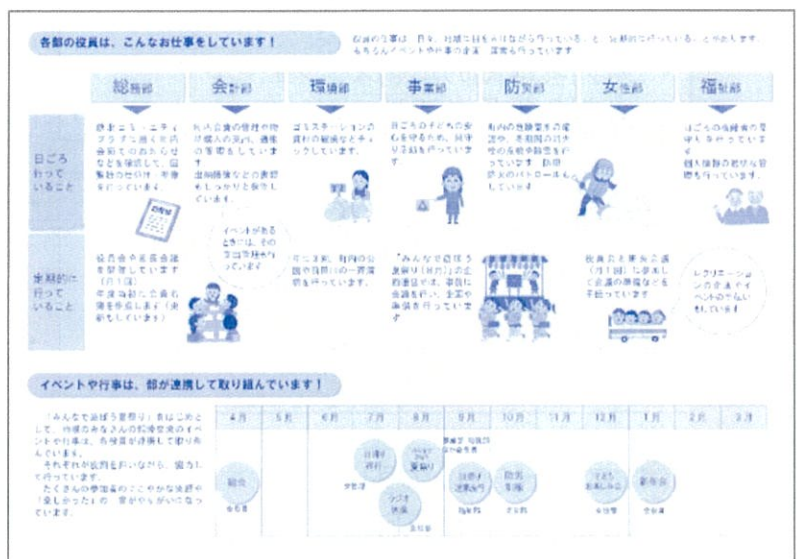
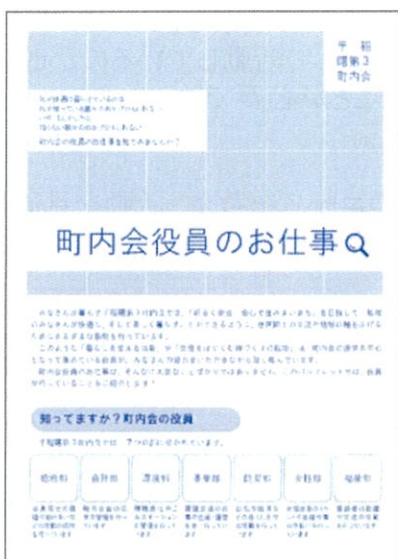
- マニュアルは、その時点でのマニュアルであり、活用してみてわかりづらいことなどがあれば、修正することが必要です。
- また、地域コミュニティの状況などに応じて町内会の活動内容の見直しがあれば、マニュアルの変更も大切です。
- 作成するマニュアルはバージョンアップすることを前提に、つくりこまないことが大切で、まずは簡単なものでよいのでつくることから始めましょう。

活用されるマニュアルを心がける

- マニュアルは活用されることが重要で、手に取りやすいものを心がけましょう。
- 文章がページいっぱいあるものは、読むのが大変で結局は活用されないマニュアルになります。
- 内容は運営のポイントを簡潔にまとめ、文章化するときにはページに余白を持たせて、全体で多くても10ページ程度としましょう。

地域コミュニティ（町内会）運営マニュアル構成（案）

- ① 地域コミュニティが目指す姿 活動の方向性となるビジョンなどの記載があると理想的
- ② 年間スケジュール 総会、清掃活動、夏祭りなどのイベント、役員会など
- ③ 行事に向けた作業内容（簡潔にわかりやすく）
例) 総会の場合 開催日時・場所、総会資料の構成、資料作成の時期
印刷と配布の方法、総会の案内と委任状の回収方法 など
- ④ 組織と各部の役割
- ⑤ 情報共有の方法 回覧板とFacebookページ、LINE公式アカウントなど
- ⑥ 役員の仕事とスケジュール
- ⑦ 班長の仕事とスケジュール



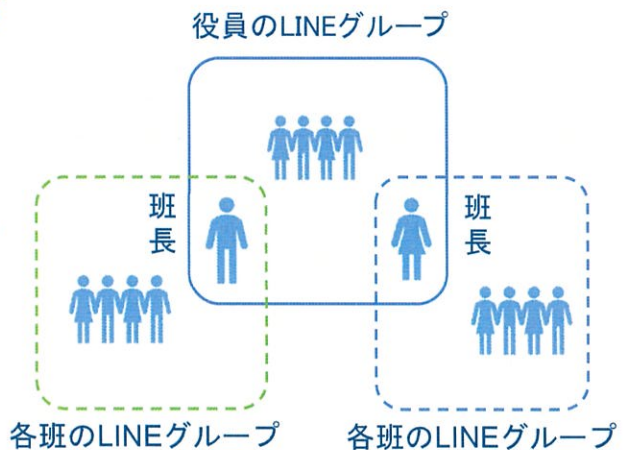
2. 町内会のデジタル化

LINEグループを用いた町内会の情報共有

LINEは多くの人を使用しているコミュニケーションツールの一つであり、町内会の情報共有で活用することは比較的ハードルが低いと考えられます。

●LINEグループを活用した情報共有

- 各班のLINEグループでは、会員同士のコミュニケーションを図ります。
- 役員LINEグループで、役員からの連絡事項などを班長に伝え、班長から会員へは各班のLINEグループで伝えます。
- 課題があった場合は、班長から役員LINEグループに連絡します。



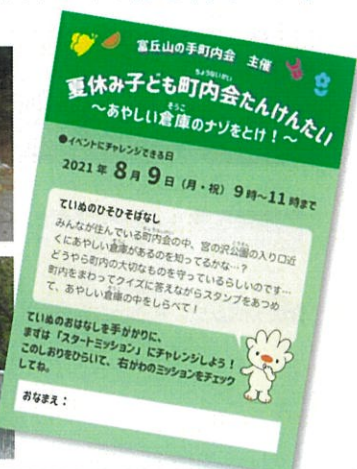
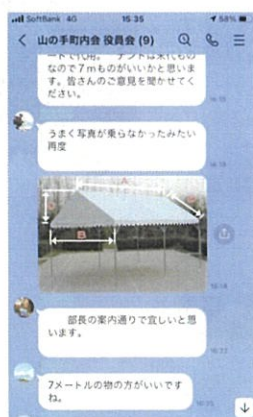
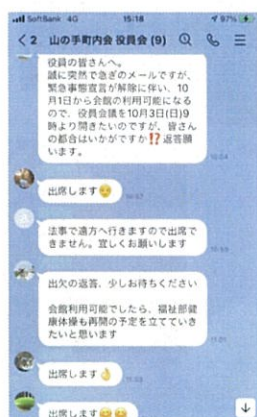
4つのメリット

- 1 発言がしやすい規模である班のLINEグループを作ることによって、コミュニケーションが取りやすい。
- 2 会議の開催や書類の回覧などの回数が減り、役員・班長の負担が軽減される。
- 3 すぐに情報共有が可能となるため、連絡事項が早く伝わり、会員からもすぐに返信が貰えるため、意思決定を早くできる。
- 4 返信がしやすく、発言も気軽にできるため、会員のニーズが把握しやすい。

事例

LINEグループを活用したコミュニケーション (札幌市手稲区富丘山の手町内会)

- 役員間では、LINEグループで情報共有や合意形成を行なっている。
- コロナ禍で大人数が集まった子ども向け行事ができないことを受け、スタンプラリーを企画した際は、LINEグループで資料の作成や当日の流れの共有を行なった。



Facebookページやホームページを用いた情報共有と広報

新型コロナウイルス感染症対策や役員の負担軽減、町内会活動のPRなどを目的とした情報発信をより効果的に行うために、Facebookページやホームページによる情報発信が有効です。

Facebookページやホームページを活用した情報発信

- 回覧板の内容や、イベントのお知らせ・報告などを発信します。
- 誰でも閲覧することができるため、広報の代わりとしても活用できます。
- Facebookページやホームページの開設時には、投稿担当者や運用のルールづくりが必要です。

3つのメリット

- | | |
|---|--|
| 1 | 転入してきた方・転入を予定している方の情報の獲得源になる。 |
| 2 | インターネットを主な情報源としている若い世代や現役世代に向けて情報を発信できる。 |
| 3 | 以前地域に住んでいた方(引っ越した方)も、継続的に地域情報を得ることができる。 |

事例

充実した内容で町内会活動を親しみやすく (札幌市中央区宮の森中央町内会)

- Facebookページとホームページで、地域の特徴や町内会の役割を丁寧に紹介。
- 豊富な写真で町内会活動の様子をわかりやすく紹介し町内会活動への参加を呼びかけ、町内会に関わりの少ない世代にもどのような参加の方法があるかを紹介している。
- 町内会の基本的情報や問い合わせフォームをホームページに掲載し、Facebookページは日々の活動報告や何気ない地域のニュースなどを紹介することで、より町内会を身近に感じてもらえるような工夫がされている。



回覧板を電子化

スマートフォンの普及によってLINEなどのコミュニケーションツールが一般化しつつあります。

町内会の情報発信の基本であった回覧板を電子化することで、役員の負担軽減のほか、若い世代が町内会の情報を得やすくなります。

LINE公式アカウントを活用した情報発信

- LINE公式アカウントでは、アカウントの登録者に画像やテキストなどを一斉送信することができます。（メッセージ配信機能）
- 回覧板や掲示板のように用いることができ、町内会における情報共有の方法として効果的です。
- 紙の回覧板と併用してLINE公式アカウントを活用する町内会もあります。

▼メッセージ配信機能



3つのメリット

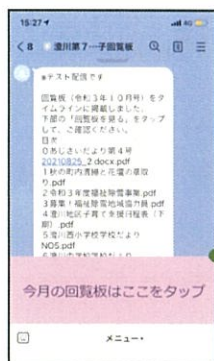
1	LINEは日常で多くの人を使用しているため、使い慣れている人が多い。
2	メンバーが返信や反応を管理者に送ることが出来る。
3	1ヶ月分の友達の登録数やメッセージの投稿数を集計し分析できる。

※一方で、使用者はLINEの登録が必要になることや、LINE公式アカウントの無料プランは月に送ることができるメッセージ数に限りがあるなどの制限もあります。

事例

紙の回覧板と併用したLINE公式アカウントの運用 (札幌市南区澄川第7町内会)

- 澄川第7町内会では紙の回覧板と併用して、LINE公式アカウントによる回覧内容の概要を配信している。
- LINE公式アカウントの配信から、ホームページに掲載している回覧書類のデータを簡単に見ることができ、町内の情報共有の効率化につながっている。



LINE公式アカウント

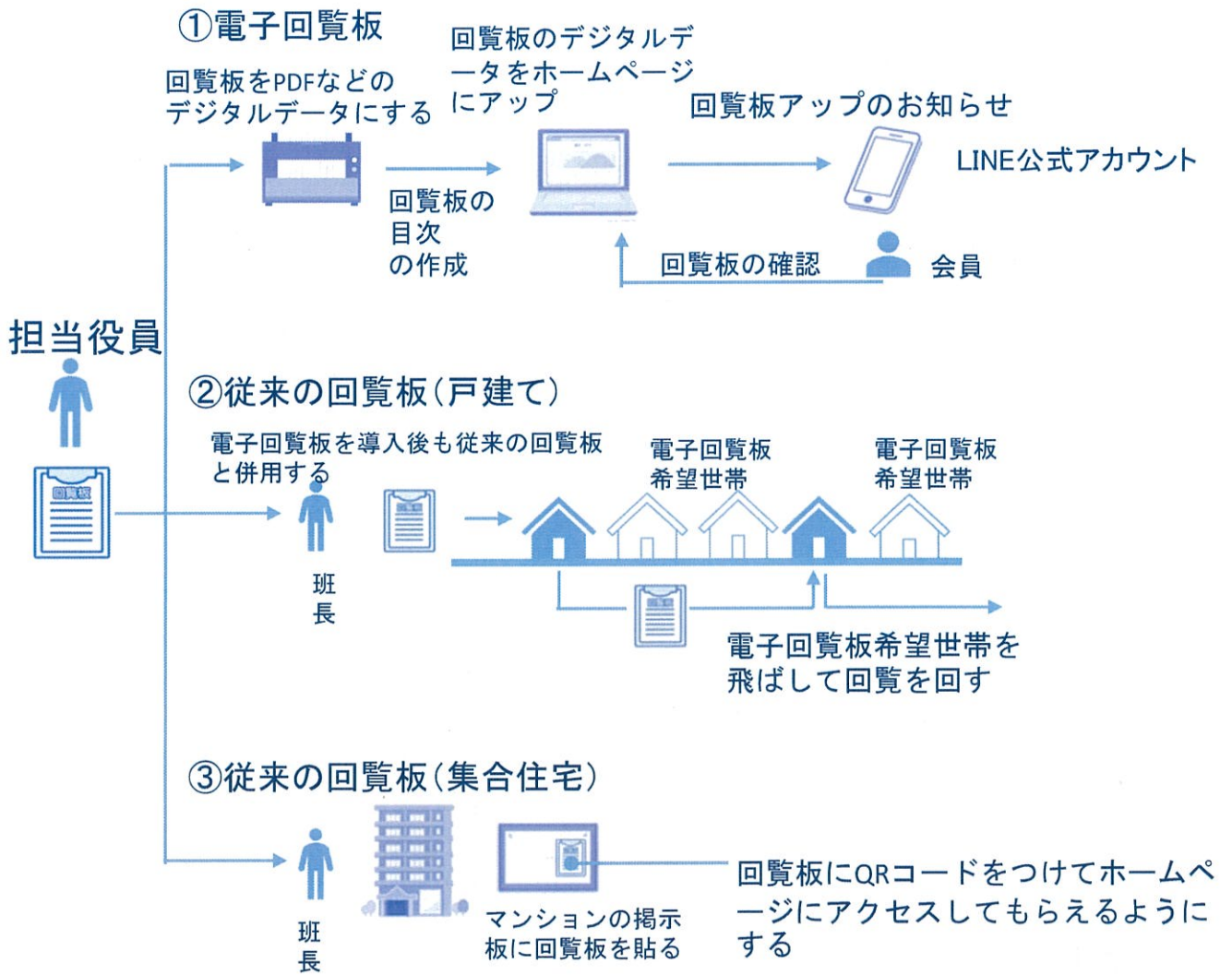


澄川地区連合会のホームページ

回覧物のデータ
が見られる！



町内会における情報の流れ



3. 若い世代の参画

若い世代や地域に戻ってきた人々に参加してもらおう！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域コミュニティで過ごす時間が増え、地域コミュニティに関心を持つ若者が増えている一方、町内会は閉鎖的で、参加しづらいといった意見や、そもそも町内会の活動を知らないといった若い世代が多い状況です。

今後、町内会に参加してもらうためには、まずは町内会に対する関心を高める必要があります。

関心の高いテーマから気軽な参加を促す

若い世代の関心が高い事業を実施することで、町内会活動に関心を持ってもらい、参加につなげやすくします。アンケート調査で聞き取るなどにより関心の高い事業を知る方法があります。

若い世代に関心の高い事業の例

例①：「環境問題」「エコ」

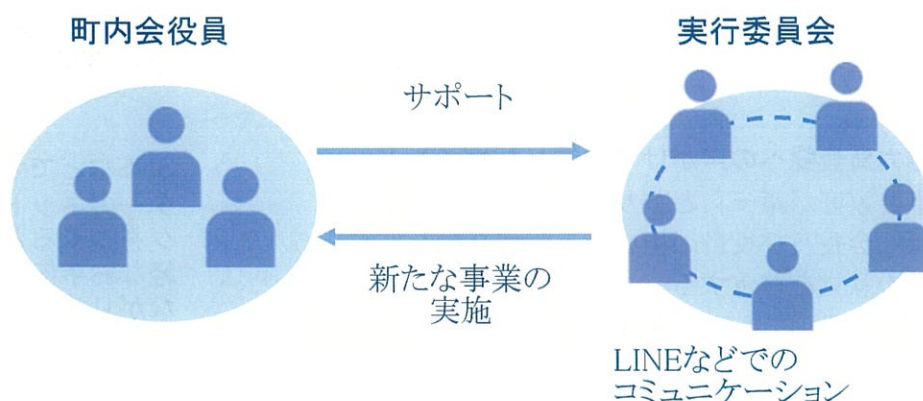
- ・ 町内をゴミ拾いをしながらまち歩きするなど、楽しく参加できるイベント
- ・ 清掃活動を行い、特にゴミのポイ捨てが多かった箇所や多かったゴミなどを周知するマップの作成
- ・ 夏祭りが出るプラスチックゴミを最小限に抑えるためオリジナルのエコボトルの配布、ボトル持参の会員には割引サービス など

例②：「子育て」「子ども」

- ・ 手芸や絵などの得意な会員が夏休みの自由研究に使えるワークショップを開催
- ・ 子ども食堂を運営するNPOなどと連携した、期間限定の子ども食堂の実施
- ・ 託児スペースを用意し、子育て中の方が集まって趣味などを楽しめるイベント など

実行委員会方式などで事業を実施

町内会の役員会などメンバー同士のつながりが強い組織に、若い世代などが新たに参加し、活動することはハードルが高いものです。そこで、役員会とは別の実行委員会を立ち上げて夏祭りや新事業を行うことで、若い世代が参加しやすい組織づくりを進めることができます。



サポーター制度の設置と活用

サポーター制度は、町内会活動のお手伝いを担ってくれる住民を登録し、行事の運営スタッフなどとして参加してもらう仕組みです。現役世代なども無理なく、時間の都合が合う時だけでも町内会活動に参加できるため、若い世代の町内会参加のきっかけとして、取り入れる町内会が増えています。

●サポーターに活躍してもらうちよっとした工夫

気軽に
参加
しやすく

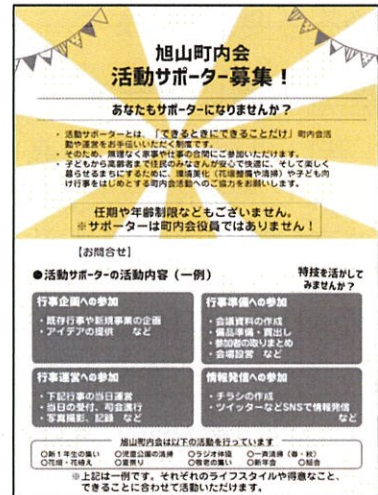
若い世代の目を引くチラシなどで、サポーターの募集をかけてみましょう。

無理強い
しない

サポーターの暮らしや興味のあることを優先し、負担にならないように配慮しましょう。

企画から
参加

企画段階から参加してもらえると、今後の役員の担い手につながりやすいです。



**旭山町内会
活動サポーター募集!**

あなたもサポーターになりませんか?

- 活動サポーターとは、「できると思えることだけ」町内会活動や運営をお手伝いいただく制度です。
- そのため、無理なく多世代多世代の意向にご参加いただけます。
- 子どもから高齢者まで住民みなさんが安心して携役に、そして楽しく暮らせるようにするために、遠慮なく「任意参加や随時」や子ども向け行事にはあえて多世代多世代への参加をお断りします。

任期や年齢制限などございません。
※サポーターは町内会役員ではありません!

【お問合せ】

●活動サポーターの活動内容(一例) 特技を活かしてみませんか?

行事企画への参加 ・既存行事や新規事業の企画 ・アイデアの提供 など	行事準備への参加 ・会議資料の作成 ・商品準備・手出し ・参加者の案内などの ・会場設営 など
行事運営への参加 ・下配り事の当日運営 ・当日の受付、司会進行 ・写真撮影、記録 など	情報発信への参加 ・チラシの作成 ・ツイッターなどSNSで情報発信 など

旭山町内会では以下の活動を行っています

○年1年ごとの集い ○運営会議の開催 ○ラジオ体操 ○一泊二日(春・秋)
 ○花壇・花入れ ○花壇の清掃 ○お祭り会 ○お祭り会 ○お祭り会
 ※上記は一例です。それぞれのライフスタイルや得意なこと、できることに合わせて活動いただけます。

事例

アンケート調査からサポーター発掘へ

(札幌市中央区旭山町内会)

- アンケート結果を踏まえて、「活動サポーター制度」を立ち上げた。その際、アンケートにて「サポーターとして手伝いが可能である」と回答した住民に対して顔合わせ会を開催。20名程度が参加し、その後の効率的な制度運営につながった。



サポーター制度から自立した若い世代のネットワークへ

(札幌市白石区共栄第三町内会)

- サポーター登録の制度である「活動協力員制度」を設置し、有志の若い世代を中心に、町内会の「サマーフェスタ」を企画から運営まで活動協力員にお任せ。
- 活動協力員同士のネットワークができ、交流が活発に行われることで、若い世代も楽しく自主的に活動することができている。



会長が協力員登録への声かけで重視したポイント

- 「仕事と家庭が第一」と割り切る
- 将来は、会長及び役員の担い手として活動してもらう
- 若い人の意見を尊重する(イベントを任せるなど)
- 会議出席は代理でも可。子連れでの参加も可

SNSなどでサポーターのネットワークをつくると、気軽なお手伝いにつながりやすい。

参考資料

町内会・自治会を考える50のきっかけシート

	分野	きっかけ項目	きっかけの考え方	チェック欄
1	町内会特性	町内会の世帯数	顔の見える規模であるか	世帯
2		町内会加入率	加入率の高い方が好ましい	%
3		戸建て比率	戸建ての比率が高い方が加入率が高くなる傾向もある	%
4		高齢化率	高齢化率に合わせた活動が必要	%
5		15歳以下の比率	子どもの比率を把握して活動に反映	%ぐらい
6		30・40代の比率	子育て世代の比率を把握し活動に反映	%ぐらい
7	組織運営	役員の平均年齢	平均年齢が機動力があり好ましい	歳ぐらい
8		役員の平均任期	任期が長期にわたると組織が硬直化	年ぐらい
9		役員の男女のバランス	男女比率は均衡に近い方が良い	男 : 女
10		開かれた役員会	誰もが参加できる役員会	
11		役員会の開催頻度	役員の負担にならない開催頻度	
12		役員会の開催時間	働いているメンバーが参加できる休日開催が好ましい	
13		ニーズの把握	アンケートなどでニーズを把握しているか	
14		オンラインでの会議	オンラインで誰もが参加しやすい会議	
15		運営マニュアル	引き継ぎやすい組織としてある方が好ましい	
16		イベント時のサポーター	イベント時などにはサポーターがいる	
17	人のつながり	あいさつがあるか	つながりの基本	
18		適度な距離感とつながり	濃い関係を望んでいる会員は多くない	
19	町内会のコミュニケーション・情報発信	回覧板のみ	回覧板だけでなく複数的手段が必要	
20		電子回覧板	メールやSNSで情報伝達をしている	
21		ニュースレター	定期的に発行している方が好ましい	
22		リーフレット(パンフレット)	加入を促すためにある方が良い	
23		Facebookの活用	50代以上が見るSNS	
24		Instagram	若い世代が見ているSNS	
25		LINEグループの活用	役員の負担軽減のための活用	
26	LINE公式アカウント	多様な情報発信のための手段		
27	町内会への意識	総会の出席率は高い	町内会組織の関心度合い	
28		清掃活動の参加率は高い	町内会組織の関心度合い	
29	町内会活動	ゴミ集積所の管理	町内会活動の基本活動	
30		清掃活動の実施	町内会活動の基本活動・工夫次第で若い世代が参加	
31		資源回収の実施	町内会活動の基本活動	
32		防災訓練の実施	町内会活動の基本活動	
33		防犯活動・交通安全活動の実施	町内会活動の基本活動	
34		花植え活動の実施	町内会活動の基本活動・工夫次第で若い世代が参加	
35		夏祭り・盆踊りの実施	町内会活動の基本活動・工夫次第で若い世代が参加	
36		ニーズにあったイベントの実施	ニーズにあったイベントから共感を得る	
37		高齢者向け活動の実施	ニーズにあった活動から共感を得る	
38		子ども向け活動の実施	ニーズにあった活動から共感を得る	
39		活動の棚卸し	活動の見直しを時々している	
40		高齢者の見守り	高齢化率に合わせた活動として実施している	
41		子育て支援	子育て世代に合わせて活動をしている	
42		子ども食堂・地域食堂	ニーズにあった活動から共感を得る	
43		NPO的事業・収益事業	町内会と別組織で事業をおこなっている	
44		コミュニティの場づくり	コミュニティカフェなど気軽に集まる場がある(会館は除く)	
45		ネットワーク	隣接する町内会との連携	他の組織との連携し多様な活動している
46	PTAなど地域団体との連携		他の組織との連携し多様な活動している	
47	学校との連携		他の組織との連携し多様な活動している	
48	高校大学とのネットワーク		他の組織との連携し多様な活動している	
49	NPOとの連携		他の組織との連携し多様な活動している	
50	事業者・企業との連携		他の組織との連携し多様な活動している	

10番以降は当てはまるものにチェックを入れてください

